

## 第2 より良い制度に向けて

今年度の審査を通して議論した内容を振り返って、以下の意見を述べさせていただきます。

- 1 この制度を有効に活用していくことができれば、NPOの新しい発想や市民の視点を活かした課題解決や、行政だけでは企画できない複数局や組織に渡った取り組みなどを実施することができると考えられます。

しかし、NPOからの提案内容が評価できるものであっても、NPOと市担当課との協議の時間が足りないために事業化に至らなかった案件があったという残念な結果を踏まえ、今後は、NPOと市職員の間での情報提供や意見交換などの機会を、より早い時期から設定することが必要と考えます。

- 2 市に対しては、各局が積極的に課題を提示され、NPOに対してアピールされたことを評価します。今後は、テーマ別に市から提示された課題の内容を越えたNPOからの自由提案に対しても、共働の意義を踏まえて積極的に検討していただき、より多くの共働事業に取り組みられることを期待します。

- 3 NPOに対しては、今回、意欲的な提案が多かったと思いますが、市との共働事業であることを踏まえ、市民サービス向上の視点や市民への説明責任を十分に認識して提案をされることが重要だと考えます。

- 4 審査委員会においては、今年度の運営上の課題を整理し、21年度も引き続き審査の公正性を担保することが必要と考えます。